経営特講レポート

経営特講（ワークデザイン）実施報告
――「気づき」を求めて――

鈴　木　　忍

はじめに
Ⅰ　本学（短大部）学生に対する視点
Ⅱ　本講座の目的
Ⅲ　授業プログラム
Ⅳ　「気づき」の方法
Ⅴ　キャリア支援課の存在
Ⅵ　本講義による受講生の意識変化
Ⅶ　今後の対策

This paper reports on the first two years of a career support program. The research is continuing, but the results of the research so far, including topics and the direction for future research are presented here.

はじめに

本学（短大部）では，近年の厳しい就職状況を鑑み，マナーを中心とした経営特講（ワークデザイン）を平成21年度より開講した．経営特講を開講するにあたり，学生が就職活動を進める上で必要と思われる「意識改革」に重点を置いた．とくに短期大学の場合，2年間という短期の修業年限であるということから，入学早々の1年次から就職活動への意識の高揚が求められている．

本講座は1年次後期のみの授業であるが，講座開始から2年間における実施結果を報告する．注目すべき点として，就職活動への意識に変化が見られたことがあげられる．とりわけ，キャリア支援課の存在に気づいた点，自分自身の問題点の確認，今後どのように対処すべきであるかという姿勢の変化が見ら

れた．もちろん，いくつかの課題も見出すことができたので，今後さらに内容を検討し，内容を充実させていきたいと考えている．

Ⅰ　本学（短大部）学生に対する視点

近年における本学学生の特徴を示しておく．まず，多くの学生が厳しい受験競争を耐え抜いてきていない点があげられる．そして，本学への志望動機についても，自らが積極的に望んでいなかった場合が多々見られる．つまり，何となく入学してきたという傾向が強いという印象をもつ．もちろん，本学を専願して学問と真摯に取り組みたいと望んで入学してきた学生も多少はいる．しかし，何となく入学してきた学生が圧倒的に多数を占めている．これが本学学生の実態である．

そのため，彼らは自分の将来についても真剣に考えようとしない傾向にあるのではないだろうか．それは，就職のためにはキャリア支援課に行って疑問点について相談するためには，キャリア支援課の存在を知らなければならないにもかかわらず，その位置情報も得ていない．身近に迫った自分の問題として受け止めていない．

こうした学生に対して１年次より就職活動を含めた進路指導を行わなければならない必要性が一層高まってきている．そのためにはまず，学生自身が現在どのような状況に置かれているのかを認識することである．入学早々に進路に関する指導を開始することは難しい．しかし，少なくとも前期中に大学の環境に慣れて，後期には翌年に取り組むべき進路の確定と，それに向けた準備が必要である．どの方向へ進むかはともかく，学生は翌年の２年次には必ず進路の選択を迫られる．本学学生の主な進路は，就職，学内編入，学外編入，他大学編入，専門学校などが考えられる．その目的を達成するためには，日々の「自分磨き」が欠かせない．自分を磨くためには，磨くべきポイントをつかむ必要がある．それには何よりも磨くべきポイントを理解するためには，本人の「気づき」が不可欠である．もちろん，気づくためには，なんらかの基礎知識

が備わっていなければならない．

ところが，新入生に対して将来求められる条件に対して，「気づき」を求めることは至難なことである．1年生はすでに18歳という年月の間に確固としたパーソナリティが形成され，あるいは習慣が身についている．例えば，授業中に繰り返し注意される学生や遅刻を繰り返す学生，あるいは課題を提出しない常習学生など，私語が治らない学生，教員の指示通りに行動しない学生が目立つのもある種の習慣がもたらすものと考えている．そこで，こうした生活習慣をどのように改めていくかが当面の重要課題となる．こうした習慣を改めなければ，受け入れる素地がないわけであるから，気づくことは至難である．

以上のことを踏まえて，短大部では就職活動の厳しさやマナーの重要性について機会あるごとに指摘してきた．しかし，学生が教職員から指摘された事柄を自分のこととして受けとめられているかは疑問である．「また言っている」「そんなこと分かっているよ」といいながら聞き流してしまい，同じような注意を受け続けている現実がある．

そこで経営特講では，1年次の後期科目としてワークデザインという副題の下に，就職活動を開始するに当たって学生の意識変革への取り組みを開始したのである．本講義は開講してから2年目を終えた．1年目は，「自分を知る」ことに焦点を当てて進めることで，一定の成果は達成できたと考えている．しかし受講生の中には依然として就職活動を自分の人生の大切な出発点であると考えていない者のも見られた．

そもそも何事においても「気づく」ためには，その土台となる素地が必要になる．単に「気づけ」といったところで，意識がないから「気づき」ようがない．試みに，答案の中からで目立った誤字を示し，確認した後再びその漢字を書いてもらったが，30％程度の学生は誤答であった．その後正解を示した時に，「あっ，そうか!!」と思った学生は間違えに「気づいた」のである．それでも一部の学生は相変わらず同じ間違えを繰り返している．問題はこうした過ちを繰り返す一部の学生の意識変革をいかに進めるかである．初年度では以下のような簡単な問題を出題した．

＜問１＞　「かんぺき」を漢字で書きなさい．

＜誤答＞　「完壁」　土は誤りです．

＜正解＞　「完璧」　土ではなく玉が正解です．

＜問２＞　意見の「いっち」

＜誤答＞　「一到」　“りっとう”は誤りです．

＜正解＞　「一致」　“ぼくづくり”が正解です．

＜問３＞　古代史の「せんもんか」

＜誤答＞　「専問家」“問は誤りです．”

＜正解＞　「専門家」“門が正解です．”

問２を誤っている者は少数だが，誤答した学生に２回目も同じ問題を出したところ，誤っている者がいた．正しい漢字が何かについて関心を示していない証拠である．極論すれば，自分が今ここにいて，何をしようとしているのかが分かっていない，ということなのだろうか．何となくここにいるのである．こうした学生に対して，「気づかせる」ためにはどのような取り組みが必要なのだろうか．無視できない問題である．こうしたことからも「気づこう」としない学生に「気づかせる」ことの難しさが了解されよう．

以上の漢字は小学生レベルであるが無視できない現実なのである．誤字を書いてなんの疑いもなく堂々と提出する学生がいる．つまり，本人は小学生からなんの疑いもなくこれらの漢字を手紙やレポートなどに書き続けてきたのである．このなんの疑いもなく，という点が重要なのである．後述するが，「気づき」の点では，マナーの実技演習において，最初は何が悪いのかがわからなかったが，「声が小さい」「モジモジしている」「髪をいじる」「正面を向いていない」など良い例と悪い例の区別ができるようになっているのも本講座の成果の一つと考えている．

さらに，就職活動に入る新２年生に対し，安易な方法で就職を決めるような方法をとらないよう指導しているが，「ダメなら，アルバイトしながら探す」などという安易に諦めるような態度を改めない学生もいる．キャリア支援課を積極的に活用するよう指導しているが，相変わらず安易な方法で探すという傾

向が見られる．

キャリア支援課には，求人情報が日々更新されており，本学に来ている求人情報は信頼性が高いので，諦めずにキャリア支援課の指導を受けながら，積極的に就職活動に取り組んでもらいたい，と繰り返し伝えてきた．しかしながら，キャリア支援課で用意しているジャンプアップノートの記入やカンパニーフェアや企業説明会などへの参加も一部の学生にとどまっている．キャリア支援課にはさまざまな支援内容が組み込まれているので，大いに活用してほしい．

もちろん，就職活動において内定を得たなら，速やかにキャリア支援課まで連絡し欲しい．これは学生の義務である．学生のために日々協力を惜しまず対応してきた部署や職員に対してできるだけ速やかに結果を報告するのは礼儀であろう．同様に，就職活動は本人一人の力でなし得るわけではないのであるから，就活先の内定を得るために尽力してくれた人たちにも速やかに礼を述べるのは社会人としての礼儀である．お礼は早ければ早いほど本人の嬉しさ，ありがたさを示すものであるし，礼を尽くすことによって，受け取った人は好感をもたれるであろう．

Ⅱ　本講座の目的

以上に示した短大生の特徴から，近年ますます厳しさを増しつつある就職内定率の底上げを目指すのが本講座の第一の目標であることはいうまでもない．そのためには，学生が自らの将来について真剣に取り組む姿勢が求められる．いかなる支援プログラムを開発しても，取り組むべき学生自身の意識が改まらなければ成果は望めない．

以上から，当面は学生に対してまず意識を高めるための方策を講じていく必要があると考える．具体的にどのような方法で進めていくのかが問題である．そこで，後述する授業プログラムにあるように，本講座では，まず「自分を知る」ということから始めた．自分知るにあたって，自分の長所と短所を書き出

し，他人が自分をどう見ているか，自分は自分をどういう人間だと思っているかを確認することから開始した．

そのためにはまず，自分が人から見られたときにどのような自分なのかを確認することが必要である．そこでまず，十字チャートを2枚用意して（保存用と提出用），自分の長所と短所，他人から見た自分の長所と短所をできるだけ明らかにする．十字チャートには4枚のセルに長所・短所，機会・脅威を記述する．

初回では，自身の長所と短所を記述するに止めた．自分について思っている長所・短所を思いつくままに記述していく．そして，友達から自分の長所・短所を指摘してもらう．そうして，明らかになった自分の長所・短所を2〜3項目程度にまとめる．長所を伸ばして短所を補う．ある程度学生には共通した面が見られるが，本報告では触れない．

さらに，自分を知るということの手段として，図形伝達を行った．このゲームはゲーム感覚で行えるので楽しく行える．このゲームの特徴は，5〜6名のグループを組み，1名が伝達者として仲間に図形を口のみで伝えるというものである．伝達者にはアイマスクをつけさせて口頭のみで伝える．手ぶり，身ぶりは禁止である．受信者は伝達者に対して図形に関する質問を自由に行ってよい．このやり取りは大切である．伝えようとする者と聞こうとする者の積極的な姿勢を生みだす．そして制限時間内に，早く・正確に口のみで図形を伝えなければならないため，様々な工夫が求められる．例えば，同じ三角形でも二等辺三角形なのか，直角三角形なのか，その直角や斜辺の向きは，大きさはといった正確さが求められる．

図形は教卓など一定の場所で示し，発信者はいつでも見られるようにしておく．そして，グループのメンバーと発信者の合意のうえで「できた」ことを確認したら，発信者はアイマスクを外して，グループメンバーが描いた図形の中から最も正確と思える図形を選んで提出する．そのときに，自分が伝えようとしたのとは異なる図形が示されることもある．なぜ上手く伝わらなかったのかに気づくことになる．提出された図形は内容の正確さと早さが求められる．図

形の向きや大きさなどに注意して完成させなければならない．先に提出した図形に不十分な個所があり，後から提出した図形が正確であれば，順位を入れ替えるなどのペナルティを課す．モチベーションを高めるために，一定の景品を用意するのも集中力を高めるためには効果的である．

要領よく正確に伝えることができた者とそうでない者とではまったく違った図形になっている場合もある．大切なのは，普段何気なく話していることが如何に正確さを欠いているかを知ることである．この図形伝達は，口のみで意志を伝えなければならないのであるから，まったく話したことのない友達と会話をすることにより新たな友を得るという副次効果も得られる．人前で話すことが苦手な学生にとって，話さなければ進まないゲームであるから効果が期待できる．

以上のように，本講座では，「気づき」に対して徹底的に意識の高揚を図るべく半期という短期間ではあるが，学生の就職活動に対して積極的に取り組む課題を発見するための一助となる．

Ⅲ　授業プログラム

本講座は，平成21年度より開講し，今回の報告は2年目の成果内容である．初年度から「気づき」に重点を置いてきたが，学生自身の成長の記録という点では不足が感じられた．自分がどのように成長してきたのかを実感できる工夫が必要である．学生の質の低下が指摘される昨今，こうした学生の将来を決する大切な時期である1年次より積極的な意識改革が求められる．入学早々に就職活動に関わる講義は馴染みにくいと思われるが，現実問題として短大部の学生は1年次の成績が将来を決するのである．

短大生活の1年間は非常に短い．教育現場にあるわれわれは，その短期間の中で何ができるか，何をしなければならないかを問うた時，本講座では，まずマナーを優先すべきであると考えた．これは授業中の私語や居眠り，早退，遅刻や携帯の管理，飲食などといった日常の受講姿勢とも関係が深い．この講

座の内容は以下のとおりである．

①総合ガイダンス	科目担当　キャリア支援課
②自分を知る（自己診断）	科目担当
③自分を知る（図形伝達）	科目担当
④自分を知る（十字チャート）	科目担当
⑤自分を知る（GATB）	キャリア支援課
⑥将来を決めるものは何か	科目担当
⑦社会が求めるもの（ビデオ）	科目担当
⑧コミュニケーション：言葉遣い 1	外部講師
⑨社会を知る：OHBY 紹介 自己分析と履歴書の作成方法	キャリア支援課
⑩コミュニケーション：言葉遣い 2	外部講師
⑪コミュニケーション：言葉遣いの確認	外部講師
⑫マナー：応対の仕方（ビデオ）	外部講師
⑬マナー：応対の仕方（ビデオ確認）	外部講師
⑭実務家による講義	外部講師
⑮まとめ　レポート	科目担当

以上のように，本講座は科目担当者，キャリア支援課，外部講師による多面的な取り組みが特徴である．科目担当者はキャリア支援課と協力して好ましい授業内容を構築し，キャリア支援課を通して外部講師の依頼を進めている．まだ，2 年目という短期間ではあるが，この多方面の専門家による講義はほぼ目的を達成できたと考えている．

(1)　気づき

このようなマナーを学ぶにあたり，多くの場合そうしたことに気づいていないケースが多いのも事実である．注意されてもなぜ注意されているのかが理解できないのである．まず「気づき」とはどういうことなのかから始めなければならない．先に触れたように，答案の中から目立つ誤字に気づかせることから確認を始めることにした．まず，「かんぺき」という漢字であるが，約 1 割の

学生が「完壁」と書いていた．そこで「完璧」と正し，翌週に再び「かんぺき」を漢字で書かせたが，2割程度の学生が「完壁」と書いている．恐らく，ここで前回誤っていた学生の約2割は「完璧」であることに気づき正しい漢字を書いたのである．そして2割の学生は相変わらず「完壁」と書いているので，正しい漢字を示しているのにもかかわらず，再び「完璧」を「完壁」と書くというのは気づいていないということになる．こうした事象は日常の中にも見受けられる．

本講座では，最初に誤字を書いた学生の内，正解を示すことで誤字に「気づいた」学生をどれだけ増やすことができるかが課題である．つまり，気づかなかった2割の学生にも気付かせるためにはどのような方法が好ましいのか．

(2)　図形伝達

このように，「気づき」とは無意識の，いわば深層に関わる問題なのだろう．完全に「気づかせる」ためには，繰り返すより方法はないのかもしれない．しかし彼らは翌年に将来を決めなければならない現実が迫っている．本講座の基本的立場は，何事によらず気づけば意識が高まるものであると考えている．そこで「気づき」のための対策についての確認をあらゆる角度から行ってきた．その一つが図形伝達である．図形伝達はゲーム感覚で楽しく体験することができることから，「気づき」のよい練習であると考えている．

図形伝達とは，グループの伝達者があらかじめ用意した図形を確認後，アイマスクをした伝達者が，口頭で仲間に伝える．伝達者は身ぶり手ぶりやメンバーが描いている図を見ることは厳禁である．但し，口頭による質疑応答は大いに行ってよい．受信者と発信者との間で確認を終えたら，数人の受信者が描いた図の中から最も正確な図形を選んで提出する．複数のグループ間で早さと正確性を競うことによって伝達者は表現方法の工夫がなされ，受信者は理解を深めようと努力する．できれば何らかの賞を用意することで競争意識が高まり集中力を高めることに役立つ．さらに，観察者を置くことで，伝える側，受ける側のやり取りをつぶさに観察でき，伝える側，受ける側の様子を観察することができる．まさに，ロールプレイイングとして異なる立場の体験が可能であ

る．

（3）十字チャート

自分の長所や短所を確認する．できれば友達とお互いの長所や短所を率直に指摘し合い，相手が思っている長所や短所も記述する．基本的には自分の短所を改め，長所を伸ばすということになるのだが，現実には実現困難な場合が多い．しかし，短所を知るということは，多少なりとも改めようという気持ちになることはできる．気づかずにいるのと比べれば大きな違いであろう．

もし，自分の将来への夢があるならば，外部環境との関連で「機会」や「脅威」という項目への記述も可能である．この段階では，まず自分の長所と短所を把握し，長所を伸ばし，短所を改めることから始めることになる．

そして，将来の夢について記述させた．しかし，単に夢といっただけでは漠然としていたので，「君たちが40歳になったらどのような大人になっていたいと思うか」と問いかけた．結果は，女子学生が多いこともあって，「2，3人の子供を産んで，楽しい家庭を築きたい」が圧倒的であった．20年以上先の自分の姿を描こうとしたが，多くの学生にとっては，それを描くことは困難であったのだろう，と考えた．そこで，次年度では，申し少し近未来的な「30歳になったらどのような大人になっていたいか」と問うてみることにしている．

（4）GATB

職業適性検査で，自分がどのような職種に向いているのかをチェックする．これはキャリア支援課の協力によって進められた．近年，就職に関して本人の希望と適性とがミスマッチするケースが多いように思う．まだ，どんな職業を選んだらよいのか分からない学生にとって，自分がどのような職種が合っているのかを知ることは大切である．無闇に理想だけを追うような将来の決め方は，結局ミスマッチを起こす原因になり，フリーター希望者を増やす結果になる．そうならないためにも，自分に合った職種を選ぶためには，できるだけ早い時期に職業適性によって明確にして，キャリアセンターの協力を仰いで取り組むことが望ましい．

（5）コミュニケーション（マナー）

図形伝達によって，コミュニケーションの難しさを認識することは大事なことである．就職活動における面接は，日常の友人との会話以上に緊張するし，相手に伝えることと同時に相手が伝えたい内容を理解することも一定の訓練を要する．相手が話している内容について憶測で応答するのではなく，相手の言いたい内容を正確に理解して応答することが大切である．そこで，立場をわきまえた基本的な丁寧語，敬語，謙譲語，挨拶の仕方，姿勢や身ぶり，表情などのマナーについて体験的に学ぶ．

コミュニケーションは，状況によって取り組み方が異なる．とりわけ，就活における面接は面接会場という特殊な場面で行われるのであるから，日常では問題がないしぐさでも，面接官から好感をもたれるか，そうでないかを意識して練習しておく必要がある．これは実際に練習することで解決できるものと考える．

（6）応対練習

面接は，日常会話のように自分がどう見られているかということを意識しなければならない．ところが，普段から意識していなければ気づかない．気づくためには，自分の仕草を確認することと，他の人が行っていることの良い部分と悪い部分を見極めることが大切である．そのためには，ビデオを利用することが効果的と考える．

ビデオは「ドアのノック」「入室」「挨拶」「礼」といった簡単な流れで行った．基本的には「ノックする」，「どうぞ」の合図で入室，「ドアを開けて入室し，礼をする」「所属と氏名を告げる」「おかけくださいの合図で着席する」「ハイ，結構です」の合図で，「礼をして退室する」の順で全員が行う．こうして撮影したビデオは次週に再度映写しながら，問題点の指摘を行った．受講生はみんなの前で２，３回は面接の簡単な実習を行うことになるので，人前での緊張を和らげる効果もあるものと考えている．

（7）実務家の講義

最終週には，企業側から講師を招き，企業の紹介と企業が求める人材につい

て講演を行っていただいた．平成21年度はY社，平成22年度はF社より人事課から派遣していただいた．

いずれの場合も，会社の事業内容や労働条件など，厳しい中にも人間味あふれる講義が学生からの好感を得ていたようである．今回のF社については，一般に個人向けのパーソナルコンピュータのメーカーというイメージが強かったが，意外にも企業向けのソルーション事業の割合の方が多いと聞き，もっと企業研究をしなければ，という意識の変化が見られた．両公演とも公演後に，数名の学生が講師の方に質問をしていた姿が印象的であった．

（8）意識調査

最終授業において，（1）最初のビデオと2度目のビデオとの比較，（2）今後の心構え，（3）キャリアセンターの活用，（4）最終事業の講演の印象，（5）意識の変化という5項目について授業のまとめを記述させた．詳細は巻末に載せておいたので，参照して欲しい．

以上が，本年度経営特講の授業プログラムの内容である．後述のとおり，このプログラムを開始して2年目であるが，一定の成果が認められたので，今後の課題も含めて以下に述べることにする．

Ⅳ　「気づき」の方法

すでに授業プログラムで紹介したように，学生が日常生活の中で当たり前に行っていたことが，就職活動においては通用しないことが多々見られるのである．挨拶の仕方や話し方，身ぶりや姿勢など自分の置かれている状況を理解しないままに普段通りの応対では，面接官に不快感を与えてしまう．マナーについては，守るべき基本的な内容は多くはない．そこから何が好ましく，何が好ましくないのかを知ることは，人格形成においても非常に重要なテーマである．

学生が十数年という長い期間に培われた人格を半年あるいは1年で改めることは至難である．社会から好印象をもたれるような人格を形成するにはまず

何が求められるのだろうか．一昨年の日経新聞に，企業が求める人材として第一にあげられていたのは「マナー」であった．マナーは，一朝一夕には解決しない問題であるが，面接などで第一印象が重要である点からすれば，無視できない重要な課題である．

マナーには，姿勢，髪の毛の色や形や服装，挨拶の仕方やしぐさ，応答の明朗さなど多くが人格に関わるものである．1年生に対してマナーといっても入学試験で面接の練習をしてきたとはいえ，就職試験の面接とは異なる点を理解しておく必要がある．企業はリクルートして人を集めるだけではない．将来共に活動していく仲間として適切な人格の持ち主であるか見極めようとしているのである．（巻末の参考資料1参照）

こうした就職活動への取り組みとして，21年度はまとめとしてビデオ撮影を行い，外部講師から一人ひとりに対して問題点を指摘してもらった．しかし，マナーの練習を終えてのビデオ撮影では，何が良くなっていたのかが十分理解されていないようであった．そこで今回は，外部講師の講座が始まる前に，「ノックして」「ドアを開け」「挨拶して」「着席」するまでの一連の動作を，特に練習をせずに行い撮影した．簡単に問題点の指摘を行った．そして，一連のマナーに関する講義を終えた後に再びビデオ撮影を行った．この2回目のビデオ撮影の学生による評価を記述式で回答した．2回目では，全員リクルートスーツで行なった．そのため，姿勢や身振りが明確になり，ラフな普段着とは異なる緊張感で実施できた．

表1は，簡単な面接におけるマナーとして，一人ひとりの学生に「ドアのノック」「挨拶」「礼」「自己紹介」「礼」「着席」など一連の動作をビデオにより指導した結果である．表のタイトルが「最初と比較して」となっているが，既に一回目はマナーの準備をする前に同様の動作をビデオで確認していたのである．二回目のビデオ撮影では，「挨拶の仕方」「礼の仕方」「姿勢」「しぐさ」「発声」「目線」「髪の毛の始末」など詳細に留意点を指導した後に再度同様の動作をビデオに撮って確認した結果である．

表に見るとおり，当人には気づかない点を受講生は様々な点を指摘してい

表1　ビデオによる確認　最初と比較して

髪をいじったり，声が小さい	4
背筋を伸ばす	4
堂々としていた	9
目線がよくなった	6
メリハリが必要	8
周りの人が成長していた	1
意識が芽生えた	4
取り組みの意識が感じられた	3
髪をとめることで好印象に	4
手の位置	2
服装	5
表情が暗い	1
2回目の方がスムーズ	11

る．髪をいじる，背筋を伸ばす，目線，発声，手の位置など面接に当たって心掛けなければならない点を指摘している．これは，普段気にしないで行ってきたことを新たな目で見ると問題点として指摘できることを示している．

「気づく」ということは，無意識の領域にある問題点を意識的に引き出して補う点にある．意識のない状態で「気づく」ことはできない．それでは意識とはどのように育まれるのであろうか．

以上の表1をもう少し詳しく紹介しよう．以下の通り受講生のほぼ全員が今まで気にもしていなかった面接時の応対態度や身なり姿勢などに気づくようになった．文は学生の記述をそのまま無記名で掲載している．

◆初めの頃は，髪をいじったり，声が小さかったりしていた人がいたけど，この半年でとても減った気がする．

◆最初にビデオで撮った時は皆，私も含めて照れもあったし結構しっかりしていない人も多かったけど，2回目はほとんどの人が前に比べて堂々としていた．

◆入室のしかた，目線が良くなっていた．意識しているのが分かった．雰囲気が少し変わった．

◆前回に比べると皆就職活動に向けての雰囲気が感じられた．自分の姿で気づ

いたことは，顔が上がっていて前回よりハッキリとした印象だったことと，髪を留めるとめたことで明るい印象になっていたことです．

◆姿勢が良くなった．お辞儀がきれいになった．声が明るくなった．

◆前よりもしっかりしていて，話し方や立ち居振る舞いも良くなったが，まだまだだなという感じがした．

◆最初のビデオよりも全員が良くなっていたと思う．みんなの意識が就職活動に向かっていると表情や態度から伝わってきた．声の大きさや姿勢など全体的に良くなっていたと思う．しかし完璧な人はいなかった．私自身も自分では色々な事に意識してやったつもりだが，ビデオを見るとテキパキさがなく，思ったよりも声が小さく，表情も少し暗かった．しかし前よりは良くなっていたので，練習して，日常生活でも表情や姿勢など意識するように心掛ける．

◆最初に見たビデオでは髪はそのままだし，猫背だった．新しく撮ったビデオでは猫背は直っていたきがしました．スーツを着ると堂々としているように見えたし，自分がどう映っているか確認できて良かった．

◆最初のビデオの自分は動きが不安定で，声もとても小さく下を向いていたが，２回目のビデオの時は，「失礼します！」から大きな声が出ていて，動きは以前よりもスムーズだった．１回目より２回目の方がはるかに良くなっていた．

◆最初は目線が下を向いている人やしゃべっているときに動いてしまう人がいたけど，坪田先生の講義を受けてから，しっかり前を向いてはきはきと自信を持ってしゃべっている印象を受けました．

以上のように，姿勢，髪型，声，礼の仕方，面接時に髪をいじるなど他の学生のビデオを見ることで，どこか問題かを的確に指摘できるようになっている．

V　キャリア支援課の存在

平成20年のキャリア支援課の利用状況は極めて低かったが，平成21年度よりキャリア支援課への相談件数が大幅に増加している．経営特講において就職活動は積極的にキャリア支援課を利用するよう指導してきたが，これまでは学生の積極的な利用が見られなかった．本講座は，短大教員，キャリア支援課，外部講師による多面的な内容となっており，とりわけキャリア支援課の積極的な協力体制が学生への認知度を増したものと考える．本講義を終えるにあたり，学生にキャリア支援課を今後どのように利用していくかを問うたところ．以下のとおり，受講生のほぼ全員がキャリア支援課を積極的に利用したいとしている．文末に掲載した資料２の一部を紹介する．

◆キャリア支援課は履歴書の見直しや企業を一緒に探してくれるとても親切な場所です．行けば仲間がいて，情報交換もできる．これからキャリア支援課に行く生徒も増えて混雑して先生方も忙しくなるので，何も考えずにただブラーっと行くのではなく，自分の意志はしっかり持ってアドバイスなどを聞きに行きたいと思う．

◆せっかく私達のサポートをしてくれるキャリア支援課があるのだから，最大限に活用していきたいと思う．でもいまいちどのように活用したいいのか分かっていないから経験者にいろいろ聞きたいと思った．

◆就職活動について疑問が生じたらキャリア支援課へ行く．自分の就職活動において情報収集のために利用する．

◆履歴書の添削や，面接の練習をしてもらい，自分に自信をつけるために利用したいです．それに加えて，求人票も見に行ったり，相談（過去に短大から受けて受かったのか）など聞かせてもらいたいです．

◆経営特講の授業で出した履歴書が完璧なものではなかったので，もう一度書き直して改めて見てもらおうと思う．また，エントリーシートを書く時も相談してもらったり，求人の情報を得るためにも度々活用させてもらおうと思う．

◆疑問点や悩みなど出てきたら，すぐに相談する等，積極的に活用する．しかし全てキャリア支援課任せにしないように気を付けたい．キャリア支援課はあくまで一つの「ツール」である．キャリア支援課に行っているから大丈夫等，自己満足して終わらせない．就職活動をするのは自分自身．

◆エントリーシートの書き方やどのような職業を募集しているか等，自分では分からない事がたくさんある．個人面談をし，面接の練習などもやりたいと思う．求人なども良いものがあると思うので，行ける日は行くようにしたい．キャリア支援課があるのだから，決まるまでたくさん利用したい．

◆今日，宇田川さんと今後どう活動していくか話し，教えていただいた．1月はとにかく試験で成績よく，2月～3月は自分で説明会やグッドカンパニーに積極的に参加します．企業へ行ったり，つまずいたらすぐにキャリア支援課に行き，ご指導を受けたいです．

◆履歴書作成時のアドバイスを受けるためや，企業の紹介など．キャリア支援課の先生方と一緒に頑張りたい．何でも一人でやろうとしない．誤ったやり方を指摘しもらい，自分なりの就職活動をして，満足のいくものにしたい．成長した自分を見てもらいたい．

◆まずはジャンプアップノートを見せに行きます．アドバイスをもらったり，再度履歴書を見てもらう．求人はどのような企業があるか，また先輩たちが内定したとき書いた報告書などこまめに見に行くようにしたい．

◆面接の重要性が理解できたので，キャリア支援課で何度も面接練習させてもらいたい．履歴書の作成も，印象を上げるためにも何度か見直してもらいたい．

◆効率よく情報収集ができる点を利用したい．（様々な書籍，パンフレットを入手）また，幅広い立場の人たちの話を聞く．専門資格を持った人や，もしいるならば就職活動を終えたばかりの学生など，様々な視点から自己分析をしていこうと思う．

以上のとおり，受講生全員が何らかの形でキャリア支援課の活用を考えていることが分かる．数年前までは，短大生のキャリア支援課の活用率が低かった

点を考えれば，昨年のキャリア支援課への短大生の相談件数は増加傾向にあり，今年度はさらに増えるものと期待される．

短大生のキャリア支援課に対する相談としては，授業で指導した履歴書の書き方についての指導に大きな反響があった．履歴書は一般に事務的なものと考え軽視しがちである．しかし，面接官にとっては，面識のない人物を確認する重要な手がかりである．そうした履歴書の持つ意味を理解出来たものと考えられる．

いずれにしても，就職活動を開始してから最終面接に至るまで，企業側は真剣に人物評価を行っているのである．学生は一日も早く自分の長所や短所を確認し，長所を伸ばし，短所を改める態度が望まれる．

Ⅵ　本講義による受講生の意識変化

冒頭でも述べたとおり，本講座の目的は何となく入学して，何となく就職するという態度を改めることである．それには，改めようとする意識が必要だが，意識の前提として「気づく」ことが大切である．何となく両親から進められて入学したとか，高校の担任から短大位で出ておきなさいと言われたから本学に入学した，という主体性のない態度のままでは厳しい就職活度を勝ち抜くことは難しい．

一度や二度就職試験に落ちたと言って落胆し，安易な道を選ぶことになってはならない．キャリア支援課が主催の企業説明会や企業ガイダンス，あるいは個人面談や履歴書の確認といった就職活動に欠かせない要件を満たしておく必要がある．

最終授業における最後の質問は，「本講座を受講してどのような意識の変化があったかを記せ」である．本講座の最終目的は「気づき」による意識の変化である．このアンケートの一部を紹介する．

◆最初は何も考えずに受けていたけれど，面接の大切さや，コミュニケーション力が大切だということに気づけ，就職の大変さが分かりました．なので，

これから就職ガイダンスなどに行き，話を聞こうと思いました．

◆半年前と比べたら意識はかなり変わったと思う，でも気持ちだけが焦ってしまってまだ行動ができていない．だが，この講義を受けたことによって就職活動に向けてやるべき事が分かった．ビデオなどを通してもどこがおかしいか，などの「気づき」もできるようになった．長期戦になるので経営特講で学んだことを忘れずに，しっかりと自分をもって頑張りたいと思った．

◆どうにかなると考えがなくなって，自分自身で考えて就職しなければならないと考えるようになった．

◆就活について，「そんなに厳しくないだろう」と最初思っていたが，面接官はお辞儀だけで残すかどうかが決まってしまうと知って「そんな簡単なもんじゃないだと改めて思いました．」就活についての意識が 180°変わりました．

◆一つ一つの授業が目的を達成させられた．講義は，先生方が懸命に指導して下さるので，まずそこから私は意識を変えることができた．これも気づきのうちに入ると私は思います．

◆最初の時のビデオよりは，スーツを着たりと，見た目から変わったので，そういう変化を見ると，やはり，就活という実感が湧き，就活意識が高まりました．これから，何をしていくべきなのか考えるようになりました．

◆頑張っているつもりだったけど，もっとやらなきゃいけない事に気づきました．

◆髪色を暗くしたり，いつでも自然な笑顔でいれるように外見の意識を坪田先生から学び意識するようになった．なにより，就活の大変さ，社会人としてのマナーに対する意識が強まり，SPI や資格の勉強にも，進んで臨めるようになった．

◆自分はおとなしいから仕方がない，と思っていたけど，それじゃダメなんだと気づかされた．コミュニケーションや笑顔，明るさなど，足りないものばかりで大変だと思った．早いうちに改善して，自分に自信をつけたいと思った．

Ⅶ　今後の対策

講座終了時点で，キャリア支援課の存在やそこに控えている事務職員の存在に気づいてくれたことは大きな成果であった．最終のまとめでは（資料２参照），多くの受講生が積極的にキャリア支援課を活用したいと述べていたことは大きな進歩とみている．

ところが，本講座は１月末に終了するので，2，３月に行われたグッドカンパニーフェアへの短大生の参加者は，例年に比べてかなりの増加を見たことは一定の評価を得たものと考えることができる．しかし，３月に発生した震災後５月頃まで全く活動が止まってしまった．もし，就職活動への意欲があるならば，大震災による大変な状況ではあっても春休み中にもキャリア支援課には積極的に情報収集に来てほしかったのである．その点では，まだ十分な意識改革への第一歩なのかもしれない．

こうした学生への意識高揚を求めて，さらに充実を図らなければならないと考えている．当面，講義終了後の支援体制をどう図るか，果たして１年次後期のみならず，入学早々に行うべき方策はないのか等々の課題を解決していきたい．

周知のとおり，学生へのこうした支援は短大部全体で取り組むべき問題であり，キャリア支援課を含めて大学の事務部門のとの協力関係が不可欠である．少なくとも演習科目担当教員には周知を徹底し，きめ細かなコミュニケーションが求められる．

次年度への課題としては，第一回目の授業でガイダンスを行うが，その中で「気づき」の重要性について理解してもらう．第二回目には，図系伝達を行い，各自の問題点に気づく，もちろん表現方法や正確に迅速に伝えるためにはどのような工夫が必要であるかにも各班で検討し発表する．

第三回目では，面接会場での簡単なマナーを紹介し，各自実施してもらう．結果の評価を全員で行う．第四回目では，自分を知るということで十字チャートの記入を行う．第５回目と第６回目はキャリア支援課によるGATBおよび

ジョブインタビュー，第 7 回目は社会が求める人材について考える．第 8 回目と第 9 回目は外部講師によるコミュニケーション，第 10 回目は職業探索ツールの紹介および履歴書の作成方法，第 11 回目は外部講師によるコミュニケーションにおける礼儀について，第 12 回目は実務家による講義，第 13 回と第 14 回は応対の仕方およびビデオ撮影と評価，第 15 回就職に向けて，気づいた点をいかに活かすか，就職活動に向けた心構えについてレポート提出など行い，今回はきめ細かな意識変化に対するデータの収集に努める．

＜資料 1 ＞

2 回目のビデオ撮影後

◆初めの頃は，髪をいじったり，声が小さかったりしていた人が多かったけど，この半年でとても減った気がする．

◆半年前と比べたら，先生方指導して下さったおかげでだいぶ良くなったと思うが，まだまだ駄目だなと感じた．

◆前やったときと比べて，声の大きさ・姿勢などキリッとしていた．

◆最初にビデオで撮った時は皆，私も含めて照れもあったし結構しっかりしていない人も多かったけど，2 回目はほとんどの人が前に比べて堂々としていた．

◆入室のしかた目線が良くなっていた．意識してやっているのが分かった．雰囲気が少し変わった．

◆最初の自分の姿はおじぎもぎこちなくて表情もかたかった気がしました．今日改めて見て少しは改善されていたので成長したと思いました．なおさなければいけない所も見つかりました．

◆自分は半年前とあまり変化がなく，周りの人達は，成長していて自分だけ成長していなかったのが悔しく，しっかり気持ちを引き締めなければと思った．

◆就職活動に対して，自分も友達も意識が芽生えたと感じました．前回は，ただ言われた通りに物事を進め，「就職」という自覚がなかったように思えた．しかし，今回では一人ひとり何に気を付けて面接という場を打ち勝つかとい

うポイントおさえて行動した．

◆前回に比べると皆就職活動に向けてのふんいきが感じられました．自分の姿で気づいたことは，顔が上がっていて前回よりはハッキリとした印象だったことと，髪を止めたことで明るい印象になっていたことです．

◆自分は声が小さく聞き取りづらかった．できる人を真似していい面接ができるようにしたい．

◆他の人を見て，姿勢や手の位置など変化していた人が多かったが，自分の見ると，緊張からか，言葉を抜かしてしまったり，明るさがなかったりとまだ反省し，直すべき所がたくさんあった．

◆最初の頃よりも，印象は良くなっていたが，まだまだ改善するところはたくさんあると思いました．

◆やはり変わったのは意識の違いだと思いました．声もはっきり出すようになっていたし，ひとつひとつの行動にも注意を向けるようになっていたと思います．

◆できるつもりだったが，非常にひどかった．２回ビデオをとる機会があってありがたかった．

◆初回の反省を踏まえて，２回目に臨んだが，時間もあいていたので，表情が固く親しみやすさに欠けていると思った．固くなりすぎず，面接官から見て好印象を与えられるようにしたいと思った．

◆スーツを着用していたからというのもあるかもしれないが，最初よりはピシッとしている気がした．自分自身，声は前よりも大きくなっていた気がした．ただ注意されたように，髪は変わっていないし，礼の仕方もまだまだ雑だなと思った．他の人を見ていて，2〜3 人真似したいなと思う人がいた．

◆最初のときは，おどおどしていたり，言葉を間違えたりしていたけど，今回はスーツだったので，手の位置と表情のことを注意されたけど，前回よりは良かったと思いました．

◆最初に見たものと２回目に見たもので，とても成長しているなと感じた人もいれば，以前とあまり変化の見られない人も多かった．しかしそれは以前

と全く変わりがなかったというわけではなく，一生懸命やろうとしている意識のようなものは，２回目にビデオ見たときの方が感じ取ることができたように思う．

◆最初は恥ずかしさがありました．自分のことで精一杯で動作のことばかり気にしていました．しかし，授業を受けていくうちに，就職活動に向けて自分を見つめなおし，自分の長所の生かし方を学びました．最後のビデオでは，クラスメイト全員が背筋を伸ばし，大きな声を出して自分をアピールしようとしている姿勢を感じました．

◆姿勢が良くなった．お辞儀がきれいになった．声が明るくなった．

◆初めて自分の姿をビデオで見たとき，猫背だし声が小さいしハキハキもしていなく，とても就職活動ができる状態ではありませんでした．けれど先生方から指導を受けるにつれて動作にメリハリがつくようになりました．

◆最初にビデオで自分の姿を確認したときは，あまり真剣に取り組んでいる人は少なかったが，２回目の確認のときは全員の目の色が変わっていた．

◆前よりもしっかりしていて，話し方や立ちいふるまいもよくなったが，まだまだだなという感じがした．

◆最初のビデオよりも全員が良くなっていたと思う．みんなの意識が就職活動に向かっていると表情や態度から伝わってきた．声の大きさや姿勢など全体的に良くなっていたと思う．しかし完璧な人はいなかった．私自身も自分では色々な事に意識してやったつもりだが，ビデオを見るとテキパキさがなく，思ったよりも声が小さく，表情も少し暗かった．しかし前よりは良くなっていたので，練習して，日常生活でも表情や姿勢など意識するよう心がける．

◆最初に見たビデオでは髪はそのままだし，猫背だった．新しく撮ったビデオでは猫背は直っていたきがしました．スーツを着ると堂々としているように見えたし，自分がどう映っているか確認できて良かったと思いました．

◆最初のビデオの自分は動きが不安定で，声もとても小さく下を向いていたが，２回目のビデオの時は，「失礼します！」から大きな声が出ていて，動

きは以前よりもスムーズだった．1回目より2回目の方がはるかによくなっていた．

◆最初は，声も小さく表情も暗くおどおどした感じであったが，少しは堂々とスラスラとできるようになったかと思う．

◆最初のビデオは，やる気の無さそうなイメージだったけれど，マナー講座を終えてのビデオ映像は，まだ完ぺきではないけれどめりはりがある姿勢になったと思います．

◆最初に見た時は改善点しかでてこなかったけど今日改めて見ると「ここ良いな」と思える個所がいくつかありました．

◆一番最初に見たビデオは，皆がまだ恥ずかしさがあり，礼が深くなかったり周りを気にしていたりと自分に自信がないように見えました．授業開始から半年経ったビデオは，皆はきはきとしてたり，以前注意を受けていたことを意識していて，同一人物と思えない程しっかりしていて堂々としていました．

◆ほとんどの人がまだ直すべきところはたくさんあったが，1回目よりも断然よくなっていたと思う．授業を通して学んだことを意識するだけで，一気に就活生っぽく見えた．

◆私服の時とスーツの時とでは，見ためも自分自身の心構えからして全然違った．スーツを着ている時の方が外見はいかにも仕事が出来そうな感じがして，気持ち的にも引き締まった．あとは声や髪など細かい所に気を配らないといけないと思った．

◆最初の頃の雰囲気は，不安と緊張からのとまどいでいっぱいだったと思います．何も知識のない私達が，就職に役立つマナーなどを教わって，見違えるほど成長した自分にとても驚きました．いや，まだ未熟者ですが，最初と比べたら自信にあふれた気持ちでいられて，だんぜんやる気が出ています！

◆最初にビデオで自分の姿を見た時に，礼の仕方，声の大きさ，姿勢や仕草などを客観的に見て，改善すべき点がたくさんありました．改めて，友達や自分の姿を見ると前回よりも良くなったと思いますが，新たに「笑顔」が足り

なかったり，座り方がきちんと出来ていなかったりとまだまだ改善すべき点がたくさんありました．

◆最初撮影した時よりは，一人ひとりが，就活生としての意識を持っているように見えた．まだまだ，声も小さいし，早口だし，前髪も相変わらず邪魔だったけど，最初の撮影のときよりは，背筋を伸ばし，明るい印象になるよう心がけていた．

◆最初に撮ったビデオの方は私も友達も声が小さく，髪の毛をなんかも触ってしまっていました．また手の位置も下に下がっていました．お辞儀の仕方も頭だけ下がっていて，あまり深くお辞儀をしていませんでした．最近撮った方を見て，声もほとんどの人が初めての時よりも大きくなっていました．手の位置もおへその下あたりで組むようになり，立っている姿勢，座っているときの姿勢もきれいなっていました．全員が最初よりとても良くなっていました．

◆半年前まで，お辞儀の仕方や敬語の使い方も分からなかったし，みんなのを見ても髪の毛を結んでいなかったり，笑っていたり，恥ずかしそうにしたりと，とても内定がもらえそうにない人ばかりだったのに，今回坪田先生の講義を受けた後での成長は目に見えて分かりました．明るい印象，礼の仕方，立ち居振る舞いは就活でも通用しそうな人が何人もいて，この授業をうけて良かったと思いました．

◆今回改めてビデオを見て，坪田先生に「笑顔で挨拶できている」と一か所でしたが，誉めてもらいました．最初にビデオで自分の姿を撮った時は暗かったと思うので，その所は完全できたかなと思います．ですが，声が小さい所は直っていませんでした．一回目に撮ったビデオに比べると２回目に撮ったビデオでは話しながら礼をする人も少なく感じました．

◆最初の授業では，礼儀作法も何も知らなかったし，照れもあって，自分の姿を見た時にすべて駄目だと感じた．しかし，授業を重ねていくと，講師の見本や説明でどうしたら印象が良くなるのかがわかり，普段から少しずつ意識するようになって，意識も高くなった．

◆最初は目線が下を向いている人やしゃべっているとき動いてしまう人がいたけど，坪田先生の講義を受けてからしっかり前を向いてはきはきと自信を持ってしゃべっている印象を受けました．

◆１番目に面接の練習をビデオに撮った自分の姿を見た時は，声も小さいし，お辞儀もメリハリがなく，悪いところしか見つかりませんでした．だけど，２回目にやる時はマナーの授業を受けて学んだことを自分で意識することもあったので，１回目はダメだったけど，２回目ではできているところがありました．

◆最初の方は，まだ照れがあって，無駄な動きが多かったり，丁寧な言葉遣いがぎこちなかったり，と全然ダメだったけど，授業を重ね，一つ一つの言動を学んで，練習を何回も繰り返していくクセがついたおかげで，自然な対応ができるようになった．

◆２回目のビデオを見て，最初に比べて，自信がついたように見えた．何をすべきか，相手にどのように見られたいか，という目的が，最初よりも的確に見えていたので，変化が分かりやすく見えた．

◆半年間といっても授業は十数回だけで，その限られた時間の中で皆見違えるように良い方向に変わったと思います．面接の練習をしてもらえる機会はなかなかないし，まして他の生徒の対応を見られる機会なんてないと思うのでとてもためになりました．

◆最初のビデオ撮影ではよく分からないままやったので不安がぎこちない動きにでているのが見て分かる．最後のビデオ撮影ではまだ照れはあるけれど，これから就職活動をがんばるぞという気持ちが出てる人が多かった．声の大きさや声のはり，歩き方などが全然違ったので気持でも見え方がかわることがわかった．

＜資料２＞

キャリア支援課の活用

●編入希望だけど，就職活動にも，もっと力を入れていかなければいけないと

思うので，もう少し利用していきたいと思います．

●キャリアセンターは履歴書の見直しや企業を一緒に探してくれるとても親切な場所です．行けば仲間がいて，情報交換もできかもしれない．これからキャリアセンターに行く生徒も増えて混雑して先生方も忙しくなるので，何も考えずにただブラーっと行くのではなく，自分の意思はしっかり持ってアドバイスなどを聞きに行きたいと思う．

●履歴書の作成．どの企業から求人が出ているか．

●せっかく私達のサポートをしてくれるキャリアセンターがあるのだから，最大限に活用していきたいと思う．でもいまいちどのように活用したらいいのか分かっていないから経験者に色々ききたいと思った．

●こまめに通って情報を集めたり，キャリアセンターの人に相談する．

●就活について積極的に利用したいです．

●何か分からないことや悩みがあったらすぐにキャリアセンターに行って，相談し，分からないことなどを無くし，内定をとるようにしたい．

●相談．質問．一人じゃ補えない所は多々あるかと思います．キャリアセンターを利用することによって，見えていなかった物が見えてくると思えるので，大いに利用したい．

●就職活動について疑問が生じたらキャリアセンターへ行く．自分の就職活動において情報収集のために利用する．

●分からないこと，迷った時に利用したい．

●今から就職態勢に入り，少しでも自分のためになるようにキャリアセンターを活用していきたいと思います．

●頻繁に足を運んで，就活がスムーズにすすむように利用していきたい．この授業でお世話になった方にももう一度話を詳しく聞きたい．

●百聞は一見にしかず，通うようにします．就職についてや自分自身をしるために利用します．

●履歴書の添削や，面接の練習をしてもらい，自分に自信をつけるために利用したいです．それに加えて，求人票も見に行ったり，相談（過去に短大から

受けて受かったのか）など聞かせてもらいたいです．

●履歴書などの添削．面接練習．就活での疑問，不安の相談．疑問や不安はすぐに相談して，自信を持って面接に行きたい．

●すぐに就活というわけではないけど，積極的に利用していきたい．

●１週間に一回は最低行きたい．求人を見る．ガイダンスなどに積極的に参加する．

●経営特講の授業で出した履歴書が完璧なものではなかったので，もう一度書き直して改めて見てもらおうと思う．また，エントリーシートを書く時も相談してもらったり，求人の情報を得るためにも度々活用させてもらおうと思う．

●まず，自分の就きたい職にはどのように動いたら近づけるかを知りたいです．履歴書の書き方，面接の練習もしていただきたいです．常に利用をし企業の情報なども得ていきたいです．

●今までは，キャリアセンターへ行っても，編入試験のことしか頭になくて，企業について調べたことがなかった．興味ある分野の企業を調べてみたり，SPI についてなど，就活についての知識をもっと増やそうと思う．

●キャリアセンターには２月，３月にたくさん通い，その中で自分をしっかりと知ることができると思う．学校に来る求人から主に進めていきたいと考えています．

●疑問点や悩みなどが出てきたら，すぐに相談する等，積極的に活用する．しかし全てキャリアセンター任せにしないように気をつけたい．キャリアセンターはあくまで一つの「ツール」である．キャリアセンターにいっているから大丈夫等，自己満足して終わらせない．就職活動をするのは自分自身．

●履歴書や面接練習をみてもらう．

●エントリーシートの書き方やどのような職業を募集しているかなど，自分では分からない事がたくさんある．個人面談をし，面接の練習などもやりたいと思う．求人なども，良いものがあると思うので，行ける日は行くようにしたい．キャリアセンターがあるのだから，決まるまでたくさん利用したい．

●まずは面談をして履歴書の添削をしてもらい，仮の面接のようなことをしてもらう．エントリーシートの作り方も教えてもらう．

●今日，宇田川さんと今後どう活動していくか話し，教えていただいた．1月はとにかく試験で成績よく，2～3月は自分で説明会やグッドカンパニーに積極的に参加します．企業へ行ったり，つまづいたらすぐキャリアセンターに行き，ご指導を受けたいです．今も通っているけど，もっと通って顔を覚えてもらおうと思います．

●色々な情報をのがさないように有効に利用したいです．

●頻繁に足を運び情報を収集する．

●ちょっとでも気になることがあればキャリアセンターに行きたいと思います．そして，キャリアセンターに行くことを習慣にして情報収集や自分磨きに役立てたいです．

●積極的にキャリアセンターに通い，求人を見つけたり相談やアドバイスをもらいたいです．

●面接をたくさん練習したいので，そのときに利用できたらなと思います．いろいろ相談したりなどにも利用したいです．

●何回もキャリアセンターに通う．通い続ける事でキャリアセンターの方と接して企業や就職活動の情報を得たり，自分はどのような人間でありどのような仕事に合っているかというアドバイスや助言をもらったり，面接の練習をたくさんしていきたい．

●履歴書作成時のアドバイスを受けるためや，企業の紹介など．キャリアセンターの先生方と一緒に頑張りたい．何でも一人でやろうとしない．誤ったやり方を指摘してもらい，自分なりの就職活動をして，満足のいくものにしたい．成長した自分をみてもらいたい．

●キャリアセンターには1回だけ行って終わりではなく，何度も足を運んで利用していきたいです．具体的にキャリアセンターではどういった事をしているのかよく分からないので，友達と情報を交換しながらキャリアセンターにも自ら足を運び良い方に向いていけばいいなと思っています．

●まだまだ分からない事がたくさんあるので，面接の練習をさせてもらったり，求人を見に行ったりする．

●まずはジャンプアップノートを見せに行き，アドバイスをもらったり，再度履歴書を見てもらう．求人はどのような企業があるか，また先輩たちが内定したとき書いた報告書などこまめに見に行くようにする．

●自分では何か足りなくて，どのような職場が適しているのか相談していきたい．

●今まで，キャリアセンターを利用した事がなく，耳にするだけでした．ですが，今回経営特講の授業を受けてキャリアセンターの人に就職活動のことを教えてもらい，キャリアセンターを利用した方が就職活動のことを教えて下さるし，一人や友達と悩んでいるより良いなと思いました．なので，これからは就職活動で知りたいことがあったら，キャリアセンターに行き教えてもらいたいと思います．

●就職に関する相談や会社を調べる時に使っていく．

●面接の重要性が理解できたので，キャリアセンターで何度も面接練習させてもらいたい．履歴書の作成も，印象を上げる為にも何度か見直してもらいたい．

●就職活動を始めなければならないので，履歴書の下書きや疑問に思ったことがあったら，キャリアセンターに行き解決してもらい，就職活動をスムーズに進められるようにしたい．

●就職活動に関して分からないこともたくさんあるので，いろいろな話を聞きに行ったり，相談をしに行ったりしたいです．自分のためになる情報を得るために利用したいと思います．

●効率よく情報収集ができる点を利用したい．（様々な書籍，パンフレットを入手）また，幅広い立場の人たちの話を聞く．専門資格を持った人や，もしいるならば就職活動を終えたばかりの学生など，様々な視点から自己分析をしていこうと思う．

●人と話をし，自分では分からないこと，友人からも見えない部分を見出して

もらったり，自分を見つめ直す場として利用したい．

●面接などの指導やわからないことなどの相談に利用したい．初めての就職活動で，経営特講の授業を受けていても分からないことがたくさんあるので，分からないままにせず，しっかりと相談して，自信を持って就職活動に挑めるようにしたい．

＜資料３＞

意識の変化

●最初は何も考えずに受けていたけれど，面接の大変さや，コミュニケーション力が大切だということに気づけ，就職の大変さが分かりました．なので，これからは就職ガイダンスなど行き，話を聞こうと思いました．

●半年前と比べたら意識はかなり変わったと思う．でも気持ちだけが焦ってしまってまだ行動できていない．だが，この講義を受けたことによって就職活動に向けてやるべき事が分かった．ビデオなどを通してもどこがおかしいか，などの「気づき」もできるようになった．長期戦になるので経営特講で学んだことを忘れずに，しっかりと自分をもって頑張りたいと思った．

●自分がどれだけ姿勢が悪かったか，声が小さかったか．あいさつから変えていこうと思った．

●前までは，心のどこかで，どうにかなる精神があって，甘えていた部分もあったけど，色々就職活動の話を聞く中で自分で動かなきゃ何も得られない事が分かった．もっともっと日々の生活から変えていこうと思う．

●どうにかなるという考えがなくなって，自分自身で考えて就職しなければならないと考えるようになった．

●就職活動について，「そんなにきびしくないだろう」と最初思っていたが，面接官はお辞儀だけで残すか決まってしまうと知って「そんな簡単なもんじゃない」と改めて思いました．就活についての意識は 180°変わりました．

●講義を聞いて，やはり声の大きさやアピールなどをやらなければならないなと思った．もう少し自分のこととして，何ごとにも意識を高めていきたい．

●一つ一つの授業が目的を達成させられた．講義は，先生方が懸命に指導して下さるので，まずそこから私は意識を変えることができた．これも気づきのうちに入るの思います．

●面接練習で相手に明るい印象を与える為に笑顔になったり，言葉をはっきり伝えたり，目を見て話す等，日常生活においても意識するようになりました．

●自分の中で考えることが増え，向上心が高まった．

●最初の時のビデオよりは，スーツを着たりと，見た目から変わったので，そういう変化を見ると，やはり，就活という実感が湧き，就活意識が高まりました．これから何をしていくべきなのか，考えるようになりました．

●就職活動とはデータや情報だけでなく，熱心な想いが大切だという根本的な事に気づきました．行動するのが大切であり，何も始まらないので，意欲的に今日の気持ちを忘れずにいきたいです．

●「就職の心構え」で言ったのとほぼ変わりませんが，日頃からの行動に注意したいと思います．

●自己発見です．今まで自分と向き合ったことがなかったので，この授業をとって良かったです．

●頑張っているつもりだったけど，もっとやらなきゃいけない事に気づきました．

●髪色を暗くしたり，いつでも自然な笑顔でいれるように外見の意識を坪田先生から学び意識するようになった．なにより，就活の大変さ，社会人としてのマナーに対する意識が強まり，SPI や資格の勉強にも，進んで臨めるようになった．

●自分はおとなしいから仕方がない，と思っていたけど，それじゃダメなんだと気づかされた．コミュニケーションや笑顔，明るさなど，足りないものばかりで大変だと思った．早いうちに改善して，自分に自信をつけたいと思った．

●厳しいのだからと不安がらず，自分の足で情報を探し，一つ一つの企業を

じっくりとみて，手当たりしだいでなく，しっかりと就活にはげみたいと強く感じた．

●この講義を受けてから「短大だから就職が困難だ」という先入観が無くなった．坪田先生やキャリアセンターの人達の話を聞いて，就職活動を以前より積極的に行おうという意識が高まったと思う．

●講義を受けて，就活からはもう社会人の仲間入りだと感じた．大学入試の面接の時と同じように，動作や決まったことを答えるのとはちがいました．就活では会社に認められて採用されるのは社会人としての意識や常識がきちんとこなせる人だと思いました．そのためのこの講義は，いろんな場面に備えての練習や勉強をすることで，これから自分はこういう仕事をしていかなければならないという責任感や焦りを感じ，これから自分自身の未来のために意識改善をすることができました．

●今までは自分の長所や短所，印象などを見つけるのを避けていたのだが，細菌では，自分の行動を客観的に見るようになり積極的に自分のことを知ってどう生かそうかと考えるようになった．

●考えるだけでなく，行動することが重要なんだなと思いました．

●就職活動を通して内定を勝ち取るためには，人よりも優れた能力がいると思っていた．もちろん，優れた能力を備えていることも重要だが，それ以上に礼儀が重要であることに気づいた．礼義が無ければいくら自分に能力があってもそれを発揮できない．就職活動の基礎は礼儀であることを学んだ．

●短大1年で入学してまだ1年経っていないから，就職に対して積極的でなかったが，

●就職活動は大変だとはわかっていたが，甘く見ていた部分もあったと思う．しかし，経営特講を受け，ビジネスマナーを身につけることや，自立した大人を目指すことが大事とわかった．そのためには，自ら行動し，言葉遣いや表情，姿勢など今から意識するようにする．自分はまだまだ見た目にも中身も就職に向いていなかったが，授業を受け，気づくことができてよかった．

●今まで就職したいと思っているだけで，何もしてこなかったけれど，この講

義を受けてうるうちに，自分が動かなければ何も始まらないと気づいたので，これからは積極的に行動し，就職活動に臨みたいと思うようになりました．

●就職活動は自分から動くのが大切だと本当に思った．この授業を取ったのも「動き」，履歴書の宿題が出てキャリアセンターの人に添削していただいたのも「動き」だと思います．動くと新しいことを知ります．企業のことだったり，自分の一面だったり，そのような意識に変化があり，そしてそれを楽しいと思える自分が一番の変化です．

●初め就職活動というのはどこか他人事であったけれど，この授業をとおして意識が変わりました．熱意を持って伝えるには事前にきちんと調べまとめておくことも大切だと思いました．

●今までの自分は，就職活動がまだ現実的なものになっていませんでした．けれど，経営特講を受講して自分の意識の低さに気づきました．もっとあと何年か後の自分のヴィジョンを明確なものにしたいと強く思いました．

●講義を受ける前は就活に対して，漠然とした思いだけだったけど，講義を通してこれから何をしていくべきか，どんな意識を持つべきかなど気づくことができました．就活に対して前向きに考えることができたのもこの講義のおかげだと思っています．

●この授業を受講したことにより，就職活動に対する意識が変わりました．もっともっと変わらなくてはいけないこと，大学4年生もライバル．どうやったら就職難を勝ち抜くかをとても考えるようになった．そのためには自分をレベルアップさせなくてはいけないと思いSPI対策や一般常識を今からやろうと思い勉強するようになった．

●企業は決して全ての企業がBtoCであるわけではなく，富士通のように実際はBtoBが強いということもあることに気づいた．このように，イメージとは違うこともあるので，いろいろな企業の説明会などに参加すれば，また違う発見がたくさんあるかもしれないと思った．※B＝Business, C＝Customer

●CMなどで有名なロート製薬など自分たちが知っている企業は意外にも製薬業界のランキングでいえばそこまで高くない事にビックリした．知名度と各業界のランキングは必ずしも比例しているわけではないと思った．

●今まで，自分一人で調べて他人と比べず頼らずで，のぞめ！という見方で，自分で自分を厳しくしていて，自分を追い込んでいました．けれど，様々な指導の下，一人ではなく，先生方の意見や友人の意見もどれも尊重していくことが大切なのだと思いました．

●日頃のふるまいや，挨拶の仕方など，無意識なところに自分のくせやよくないところに気づけたことが私の中でとても前向きに変化できて良かった．改めて気づいたことに少し意識することで印象も変わるなど，これからの私にとってよい変化ができました．

●話を聞いて，受け身なだけでなく，自分から，積極的に行動を起こしていかなければいけないと思った．自分から説明会を聞きに企業へ行くなど，本格的に就活をしなければと思った．

●マナーの勉強などしてきましたが，もっともっと敬語の勉強，面接の注意点などこれから今以上にやっていかないといけないと気づきました．

●講義を受ける前はマナーも知らないし，就活に対しても漠然としか考えていなく，やる気がありませんでした．でも，マナーの授業を受け，企業の方からの講義を受け，短大生だから自己表現もできないとか常識知らずだと思われたくないと思い，もっと自分を知って，アピールしたいと思いました．

●経営特講の授業を受けるまでは就職活動をあまり深く考えていませんでした．「高校や大学受験のように選ばなければ入れる」や「なんだかんだ言って入れる」と思っていました．それに面接の仕方も入ってくるところから椅子に座るところまで全然できていないことを知り，そこで初めて内定をもらうことが大変ということを知りました．自分の就きたい仕事や企業を見つけ面接を受けたら必ず内定をもらいたいです．それには周りと一緒ではだめということに気づきました．自分の意志を持って就職活動をしていきたいです．

●今は１年生だが，すぐに２年生になり就職活動をするため，もっと自分の意識を向上させていかなくてはいけないと思う．今の時点でのこのことに気づいていれば，２年生なった時に混乱しないだろう．

●今まで自分の置かれている状況を知らなくて，だらけていた．しかし，授業を通して就職する為には，今からやらなければならないことをやろうと気づいた．講義を受けていく中で意識が高まり，努力をしていくようになれた．

●就職活動は，ちょっと頑張ればいいかなと思っていたけど，ライバルは４年生や大学院生だと言われ，同じくらいと思ってもらえるように一生懸命頑張ろうと思いました．

●面接が一番大切という話を聞いて，今からでも考え抜く事が必要なんだと思いました．すぐに緊張したしまったり，人みしりをしてしまうところがあるので，コミュニケーション能力を高めるためにもいろんな人と接して自分になかった知識をつけていきたいと思いました．日頃から就職に対する意識を持って行動していこうと思います．

●「自らをどう変えたら良くなるか」をずっと考えていた．でもそれだけでは意味がないことに気づいた．「相手が何を望んでいるか」を明確な形で知っておくことが大事である．上の２つを一致させるための準備をするようになった．例えば，企業のHPを見たり，企業が開催しているものに参加したり…

●編入しか考えていなかったが，就職や働くということに興味を持つことができたし，視野に入れようと思えた．

●会社側に私達を見ていただくのは面接という場しかない．つまり，20～30分の面接で印象が決まってしまう．他の人よりも良い印象をすこしでも受けてもらえるために，自分の持っているものを最大限に引き出せるように，今回の授業で学んだ．面接マナーを今後活かしていきたいと思います．

●ビデオ撮影をすることで，自分が思っている以上に動作がださく見えることや先生の話やキャリアセンターの方の話を聞くことで企業がどんな人を採用したいかということを知ることでありのままの自分を見てもらうのではな

く，企業に合わせた自分になっていなければいけないと思った．

以上本講座では，学生の意識変化に重点を置いた講座内容になっているため，授業ごとにまとめの課題として3〜5項目について感想を課した．各授業ごとにテーマを絞っていたため，この課題すべてについて掲載することは困難であるが，できるだけ学生の正直な「気づき」の変化が伝わることを願っている．今回は図形伝達に関する調査資料は載せることができなかったが，希望があればいつでも閲覧できるように用意しておく．また，掲載にあたって，学生の氏名を除き，文をほぼ無修正で掲載したことをお断りしておく．まだ多くの課題が残っているが，今後プログラムを調整しながら進めていく．また，ビデオ撮影については，亜細亜学園からの支援があったことを附記しておく．

本稿は，経営特講の開設2年の経過を報告するものである．まだ十分な成果をあげえているとはいえないが，これまでに試みてきた方向と成果および今後の課題について報告する．